

Kanayamachi Rakuichi

金屋町楽市 in さまのこ

芸術文化学部地域連携プロジェクト

富山大学芸術文化学部教授 武山 良三



2011年のテーマと特徴的なプログラム

「金屋町楽市inさまのこ（以下楽市）」は2008年に始まり今年度で4回目を迎えました。金屋町一帯を会場としたゾーンミュージアムという基本コンセプトは堅持しながら、年毎に変化をつけるため今年度は「日々是好日 1611 2011 2411」をテーマに企画を行いました。

「日々是好日」は中国唐時代の雲門文偃（ぶんえん）禅師のことばで、「日々、この一瞬を大事にせよ」という教えが込められています。2011年に金屋町が開町400年を迎えること。そして、3月に東日本大震災があったことから選びました。これに続く数字は、金屋町が開町した年、今年、そしてさらに400年が経過した西暦を示しています。先人が残した400年の営みに感謝すると共に、日々を大切に過ごすことで、次の400年に繋げていこう、という願いをこめたテーマとしました。

東日本大震災は東北の湾岸地域一帯に甚大な被害をもたらしました。楽市実行委員会でもこの未曾有の災害にどのように向き合うか、また被災地域で生活している工芸作家へ支援する手立てがないかについて考えました。

金屋町楽市には2009年に宮城県の作家 志賀英二・まつださゆり夫妻が参加していたことから、彼らから震災後の情報を得ながら支援策を検討しました。その結果、楽市として東北で活動する作家で構成した「東北町屋」を設置し発表機会を提供すると共に、3名の作家を招聘して分科会などで被災地におけるものづくりの課題と展望について発言してもらうことにしました。

貴志雅樹分科会では「工芸都市のまちづくり」をテーマに、鋳物で有名な川口や博多人形のある福岡、そして伝統的な町並みや工芸が残る町として知名度の高い金沢からのパネラーにより討論を行い、それぞれの都市がさまざまな取り組みの積み重ねの中で、その都市らしさを構築してきたことを確認しました。

筆者が担当した分科会では「“場”とものづくり」をテーマに、金屋町という伝統の場所でもものづくりをすることの意味を、慣れ親しんだ場を奪われた東北の作家達の話聞く中で見直しました。

主な開催内容

●分科会：

○貴志雅樹 分科会

実施日：9月24日(土)
午後6時30分～午後8時

実施会場：神妙寺

テーマ：「工芸都市のまちづくり」

メインゲスト：

- ・大樋年雄（陶芸家、大樋焼き11代）
- ・中村信喬（人形師）
- ・山中知彦（新潟県立大学教授）

コーディネーター：

- ・貴志雅樹（富山大学芸術文化学部教授）

参加者：約35人

○武山良三 分科会

実施会場：北陸予防医学協会高岡総合健診センター

テーマ：「“場”とものづくり」

メインゲスト：

- ・志賀英二（宮城県柴田郡村田町・ガラス工房キルロ）
- ・まつださゆり（同上）
- ・青井一暁（株式会社ナガエ、高岡伝統産業青年会）
- ・大寺雅子（大寺幸八郎商店店長）
- ・宮地寛之（富山大学芸術文化学部、クリエイティブ代表）

コーディネーター：

- ・武山良三（富山大学芸術文化学部教授）

参加者：約35人

●作家交流会

実施日：9月24日(土) 午後8時30分～午後10時

実施会場：宗泉寺

参加者：約80人



● 金屋町楽市ゾーンミュージアム

実施日 : 9月24日(土)、25日(日)
午前10時～午後5時

実施会場 : メイン会場: 高岡市金屋町石畳通り周辺
通行量調査: 2日間で約24,000人

作品展示・販売

出展者 : 102名

作品総数 : 約3,000点

売り上げ : 1,851,718円 (820点)

● コンペティション「第2回金屋町賞」

対象者 : 18歳～35歳の作家51人

審査員 : 伊東順二、貴志雅樹、武山良三、
相川繁隆、高川昭良

審査結果 : 金屋町楽市賞 佐々木俊仁 (ガラス)
審査員特別賞 浦中廣太郎 (金工)
審査員特別賞 小林亜弥香 (テキスタイル)
審査員特別賞 武蔵川裕実 (漆芸)
審査員特別賞 平野日奈子 (陶芸)

● 金屋町大茶会「楽庵」～無一心～

実施日 : 9月24日(土)、25日(日)
午前10時～午後4時30分(一客一亭は午後5時)

席名・場所 :

無の席 ・三角公園 (招待茶席)

一の席 ・三角公園 (一般茶席)

心の席 ・小泉家 (一般茶席)

一客一亭・金屋町地内5箇所

来場者 : 約300人 (一客一亭を除く)

● 金屋町きもの通り

実施日 : 9月24日(土)、25日(日)
午前10時～午後4時

実施会場 : 金屋町石畳通り

参加者 : 和装モデル115人、貸衣装利用者53人、
着物姿の来場者多数在り

● 食のイベント

実施日 : 9月24日(土)、25日(日)
午前10時～午後4時30分

実施会場 : フジチュウ駐車場、鋳物資料館第三展示室
内容 : (場所・出店者)

- ・甘味処 (鋳物資料館第3展示室・金屋町自治会婦人部)
- ・KUMACafé (藤田家ガレージ・和風カフェ次元)
- ・屋台ブース (フジチュウ駐車場・高岡市内のお店)
- ・ビアガーデン (金屋緑地公園・ジャカッセ)

● 土産物認定

実施日 : 9月24日(土)、25日(日)
内容 : 金屋町等の13店舗の商品を認定

● 瓦版の発行

実施日 : 9月24日(土)、25日(日)
発行回数 : 5回 (各400部)

● 学生バンドの演奏

実施日 : 9月25日(日)
実施場所 : フジチュウ駐車場前、金屋緑地公園

● とんぼ玉のワークショップ

実施日 : 9月24日(土)、25日(日)
実施場所 : 金屋緑地公園
参加者 : 73人

● 「楽ぼん」抽選会

実施日 : 9月24日(土)、25日(日)
実施場所 : 本部前
参加者 : 約450人
内容 : 2,000以上買上者を対象とした抽選会。中村信喬、
野田雄、富山ガラス工房作家作品を景品に実施。



「工芸都市のまちづくり」をテーマとした貴志雅樹分科会。



「場」とものづくり」をテーマとした武山良三分科会。



金屋町楽市賞の審査風景。



金屋町楽市賞を受賞した佐々木俊仁氏の作品。



大茶会「楽庵」・「無」の席でお道具の説明に耳を傾ける参加者。



「東北町屋」前でものづくり議論をする作家達。



金屋町楽市 in さまのこ 日々是好日 1611 2011 2411

【開催期間】2011年9月24日・25日

【来場者数】24,000人

【主催】金屋町楽市実行委員会

[委員長・プロデューサー] 富山大学芸術文化学部 教授 伊東順二

[副委員長] 富山大学芸術文化学部 教授 貴志雅樹

[副委員長] 富山大学芸術文化学部 教授 武山良三

[副委員長] 金屋町自治会 代表: 加藤昌宏

[委員]

富山大学芸術文化学部 講師 横山天心

隈研吾都市建築設計事務所 代表: 隈研吾

金屋町自治会 代表: 般若陽子 / 新保智子

富山ガラス工房 館長: 野田雄一

金沢卯辰山工芸工房 館長補佐: 相川繁隆

茶道 藪内流: 小久保瑛子

茶道 裏千家: 小泉昇

高岡商工会議所 企画事業部長: 中山晃

高岡市観光協会 総務部長: 宮林照男

高岡市商業観光課 課長: 青島恒巳

高岡市生涯学習課 課長: 蒲田政裕

高岡市デザイン・工芸センター 所長: 高川昭良

[学生委員]

富山大学芸術文化学部: 万波智美 / 岡部真理子 /

尾田かほる / 館ひろこ / 宮原彩子 / 上森麻未

【事務局】金屋町楽市実行委員会事務局

(高岡市産業振興部商業観光課 / 高岡市観光協会)

【後援】富山県 / 株式会社北日本新聞社

【協賛】三協・立山ホールディングスグループ /

三芝硝材株式会社 / アクタス富山店 /

和楽庵 / 藤岡敦子礼法きもの学院

【出展者】招待作家:

相川繁隆 / 赤地径 / 荒木寛二 / 泉田之也 /

今泉今右衛門 / 岩崎晴彦 / 植埜貴子 / 大澤光民 /

太田真人 / 大野悠 / 大樋年雄 / 緒方慎一郎 / 桐本泰一 /

隈研吾 / 黒田昌吾 / 小曾川瑠那 / 佐々木比呂美 /

佐々木里恵 / 志賀英二 / 城谷耕生 / 鳥田宗吾 /

中田博士 / 中村信喬 / 難波立子 / 野田雄一 /

橋本夕紀夫 / 畠春斎 / 増田周一 / まつださゆり /

三谷龍二 / 森岡希世子 / 吉岡徳仁

公募作家:

石井聡子 / 石塚悠 / 魚屋とも子 / 加藤貴也 / 清水泰 /

鈴木岳人 / 西山美貴子 / 平野日奈子 / 福田昭一 /

前川淳蔵 / 前田秀子 / 松尾直樹 / 森和彦

金沢卯辰山工芸工房:

浅野恵理子 / 浦中廣太郎 / 加藤裕也 / 川村友美 /

小西明日香 / 小林亜弥香 / 齊藤晃子 /

杉原万理江 / 高木基栄 / 鍾雯婷 (ツォンウェンティン) /

塚原梢 / 野口健 / 野口嶺 / 半田濃史 / 南絢子 /

山崎菜穂子 / 横山翔平

富山ガラス工房:

岩瀬明子 / 加護園 / 梶原朋子 / 岸本耕平 / 小路口力恵 /

小島有香子 / 古城祐美 / 佐々木俊仁 / 佐野猛 /

佐野曜子 / 篠崎恵 / 竹田舞由子 / 竹本亜紀 / 時澤真美 /

豊岡伸安 / 中村敏康 / 野口知恵子 / 藤井友梨香 /

松下祥子 / 森康一朗 / 和田修次郎 /

MGJ プロジェクト (富山ガラス工房)

高岡市デザイン・工芸センター:

内島正雄 / 折井宏司 / 齊藤慎二 / 櫻井マキ / 中山裕晃 /

畑勝日佐 / 花嶋伊都子 / 前川わと / 武蔵川裕実 /

守弘勝 / 山本瑞生 / IRONCHOP / (株)織田幸銅器 /

(株)ナガエ / (株)能作 / (株)山口久乗 /

MJG プロジェクト (三佳)

富山大学芸術文化学部学生:

江藤玲奈 / 川越ゆりえ / 後藤千佳 / 高橋ゆり / 多智彩

乃 / 田村亜佑美 / 宮崎遼 / 渡部優

【企業展示】アクタス富山店 / 高田製作所 / ナガエ / 能作 / 二上

【展示什器協力】三協・立山ホールディングスグループ /

三芝硝材株式会社



東京での展示と金屋町開町400年記念フォーラム

今年度の特筆すべき事業として東京での開催が挙げられます。東京駅前の丸ビル・マルキューブでの「金屋町楽市と隈研吾展—ポリゴニウム・ゾーン・ミュージアムの実験—」を8月末に一週間にわたって開催できたことです。これは楽市実行委員長であり、芸術文化学部教授・伊東順二と交友のあった三菱地所の関係者が楽市を見学し、その取り組みに感心したことに端を発します。東京で開催することに価値を見出した同社から、管理しているマルキューブの利用提案を破格の条件でいただき、加えて世界的な建築家であり楽市のアルミ製展示什器「ポリゴニウム」のデザインを行った隈研吾氏の全面的な協力があって実現したものです。

楽市はもともと高岡で構築した手法をモデルとして他地域でも開催できるよう、「移動する」ことを考慮して展示什器も組み立て式でデザインされていました。丸ビル・マルキューブでの開催は、まさにそれを実証する展示となりました。

高岡という地方都市だからこそ企画できた楽市を、東京の中でも核とも言える丸の内で開催し、18,000人ももの来場者があったことは、地方からの発信に突破力があり、日本全体が東京化することから脱却する上で地方での取組強化が欠かせないことが確かめられました。

このことは展示を記念して行われた一連のトークショー：「都市のリフォーム—金屋町楽市の実験—」、「北陸のデザイン」、「地方からのデザイン発信」の議論の中でも確認されました。

金屋町開町400年記念として、9月11日に記念シンポジウムが行われました。楽市とは別事業として、金屋町まちづくり協議会と高岡市が主催しましたが、パネル討論会では筆者がコーディネーターを務めるなど芸術文化学部としても全面的な協力を行いました。テーマは、「次世代に繋ぐものづくりとまちづくり」で、東京藝術大学学長の宮田亮平氏が基調講演を行いました。



マルキューブでの展示。楽市の映像紹介も行われた。



自由に変形できる錫の製品に関心を示す来場者。



会場に合わせて組み合わせ自由なアルミ製展示什器「ポリゴニウム」。



丸の内カフェで開催された記念トークショー。



金屋町開町 400 年記念フォーラムで基調講演を行う宮田亮平氏。

金屋町楽市と隈研吾展 —ポリゴニウム・ゾーン・ミュージアムの実験—

- 【開催期間】 2011年8月25日(木)～31日(水)
- 【来場者数】 18,000人
- 【会場】 丸ビル1階マルキューブ
- 【企画・キュレーター】 伊東順二
- 【設計・デザイン】 隈研吾
- 【主催】 金屋町楽市実行委員会
- 【協賛】 三協・立山ホールディングスグループ
- 【特別協力】 三菱地所株式会社
- 【協力】 三芝硝材株式会社
金沢卯辰山工芸工房
隈研吾建築都市設計事務所
伊東順二事務所
- 【記念トークショー】 8月25日
「都市のリフォーム—金屋町楽市の実験—」
出演：伊東順二、隈研吾
- 8月26日
「北陸のデザイン」
出演：橋本夕紀夫、野田雄一、相川繁隆、
高川昭良、伊東順二
- 8月31日
「地方からのデザイン発信」
出演：貴志雅樹、武山良三、横山天心

金屋町開町 400 年記念フォーラム —一次世代に継ぐものづくりとまちづくり—

- 【開催期間】 2011年9月11日(日)
- 【来場者数】 400人
- 【会場】 ウィングウィング高岡4階大ホール
- 【基調講演】 宮田亮平 東京藝術大学学長
- 【パネル討論会】 宮田亮平 東京藝術大学学長
上野幸夫 富山国際職芸学院教授
槻間秀人 金属工芸工房「坩堝(かんか)」
加藤昌宏 金屋町自治会長
武山良三 富山大学芸術文化学部教授
平戸香菜 金属工芸工房「坩堝(かんか)」
- 【主催】 金屋町まちづくり協議会、高岡市
- 【共催】 金屋町自治会、町なみを考える藤グループ、
- 【後援】 近世高岡の文化遺産を愛する会
富山県教育委員会、
富山大学芸術文化学部、
高岡市民文化振興事業団、
高岡商工会議所、
伝統産業高岡銅器振興協同組合、
高岡銅器協同組合、
高岡銅合金協同組合